

板野中学校 同和教育だより

MY SKY 第7号

マイ・スカイ

2001年7月10日(隔週火曜日きまぐれ)発行

\\(^-^)/

発行者

編集・文責
岡吉成正士

がくしゅうかい

なつ ぎょうじ さん か

学習会のみなさん!夏の行事に参加しましゅ!!わっ!!!

学習会に参加しているみなさんはもちろん、学習会に参加していないみなさんも、夏にどんな学習会行事があるのか、どうして必要なのか、知っておいてほしいと思います。

この春に、ある学習会生徒のお家に家庭訪問したときのことでした。そのお家には、板中を卒業して3年めになる男の子がいますが、板中在学中は部活動をしていた(サッカー部)ということもあって、日頃の学習会にはなかなか参加できていませんでした。でも行事のときには、半分無理矢理のように、私が(私はサッカー部顧問)連れて行っていました。その子のことについて、お母さんがこんな話をしてくれました。

板中からあの高校に行ったのは、うちの子だけだったでしょー。それも、地域改善対策奨学金(解放奨学金・同和奨学金)を受けている部落の子も、うちの子だけだったんですよ。結局高校の中で、うちの子だけが部落の子だったようなもんです。

それで入学して、友達も数人しかできていないような間もない頃、校内放送で呼び出しがあったそうなんです。職員室に行ってみると、奨学金の話だったそうなんですけど、終わって教室に帰ってみると、高校に入って初めてできた友達が、『としたん?何かしたんか?』とはやし立ててきたそうなんです。それでうちの子はどうしたかっていうと、『奨学金の話じゃ』と、あつげらんと言ったっていうんです。つまり、自分が部落の出身だということを言ったそうなんです。それでも、その時の友達はうちの子の話を聞いてくれて、2年たった今でも、仲良くしているそうなんですけど……。

けどそのことがあった日、高校から帰ってきて今の話をしてくれたときに、私は『何でそんなこと言うたん?!』て言うてしもうたんです。そしたらうちの子に『何言よん!どこが悪いん?隠すようなこと違うでえ。そう勉強してきたもん。』て言われてしもうたんです。自分らのことを分かって、仲良くできる部落外の子が増えてきたんは同和教育のおかげやと思うけど、それでも親としては、やっぱり子どもの将来のことは不安なんです。これではあかんと思うんですけど……日頃の学習会にはほとんど参加できてなくて、行事の時だけ先生に引っ張って行ってもらってましたけど、今となっては『やっぱり学習会に参加してて良かったな』と思うんです。子どもの方がよっぽどたくましいですね。教えられました。

私自身、サッカー部員だからということで、無理矢理のように引っ張って行くことに罪悪感がないわけではありませんでした。でも、無理矢理でも参加させて、「将来差別に出会うかもしれない学習会の仲間の絆を強めておかねば！いざというときに力になれるのは、同じ立場として理解し合える仲間だ！」と思い、罪悪感を胸の内に押しとどめていたように思えます。

私は思うのです。部落外の仲間が、「差別をなくそう！」という思いで日頃からどれくらい生活できているのかと……。みなさんはどうでしょうか？人の人権を踏みにじるような場に出くわしたときに、それを応援したり、見て見ぬ振りをしていないでしょうか？同和教育や部落問題学習に関する行事があるときに、積極的に取り組んでいるでしょうか？もし、いや～な雰囲気になっているなら、その原因は「自分自身にある」と考えてみてはどうでしょうか？部落外の仲間の理解と協力は本当に大切であり必要です。ですが、一方で差別問題や人権問題に関心を示す雰囲気が少ないようなら、やはり学習会の仲間に、その絆を強めるよう呼びかけざるを得ません。

学習会の夏休みの行事は、そんな仲間の絆を強め、差別に負けない、差別を許さない、差別をなくしていく力を確認し合うという、大きな目的があります。そのことを全校生徒に理解してもらったうえで、学習会のみなさんは、是非夏の行事に参加してみてください(参加できるものだけでも結構です)。また部落外のみなさんは、是非学習会について理解し、差別をなくしていく一人として連帯できているかどうか、自分を振り返る時間を過ごしてみてください。よろしくお願いします。

がくしゅうかいなつやす しゅう ちゅうごうどういっぱくけんしゅう
学習会夏休み小・中合同一泊研修

7月30日(月)・31日(火)

かがわけん ごしきだいしゅうねん し ぜん いえ
香川県五色台少年自然の家ほか

町内の、東小・南小・板中の3学習会が合同で行く一泊研修です。体を動かしての仲間づくりもありますが、何といっても夜の語り合いが大切なんです。

だい かい ぶ らくかいほうとくしまけんがくしゅうかいちゅうがくせいしゅうかい
第6回部落解放徳島県学習会中学生集会

8月28日(火)

とくしま し きょうとぶん か かいかん
徳島市郷土文化会館

県内の、学習会に通う中学生が一堂に集まる場です。教室や学校では味わえない、部落解放を強く願う仲間が、その思いを伝え合います。

かいほう こ かいけんないこうりゅういっぱくけんしゅう
解放子ども会県内交流一泊研修

8月29日(水)・30日(木)

ひょうごけんこくりつあわ し せいねん いえ
兵庫県国立淡路青年の家

県内で「解放子ども会」が設置されているのは、板野町・徳島市・小松島市・阿南市の3市1町ですが、そこから小・中・高校生が集まり、交流を深めます。

こうして私と一緒に行事に参加できるのも、これが最後ですよ~!

!おまけ! 先日、学習会中学生集会の第4回実行委員会が、鳴門市解放センターというところで開催されました。実は前回から、「メインスローガンをどうするか?」ということで熱い議論が繰り返されていたのですが、ようやく決定しました!

『YOUNG CHAIN(若い絆) ~青空の向こう、明日には笑えるように~』

これは、板中生から提案された『CHAIN GANG』という言葉をもとにして作られました。参加者みんなの思いがいっぱい詰まった、ステキなメインスローガンです。

この集会で何らかの役割を引き受け、中心的に運営していこうという執行部員を、県内の学習会生徒から募集しています。役割の中には、司会・受付・意見発表・弁当配布・広報などがあります。「何をしたか分からない夏休み」じゃなく、「何かをした夏休み」にしてみませんか? 希望者は7月12日までに、次本または吉成まで申し出ておいてください!



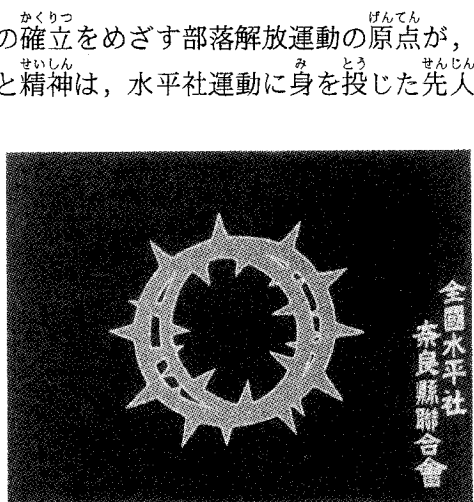
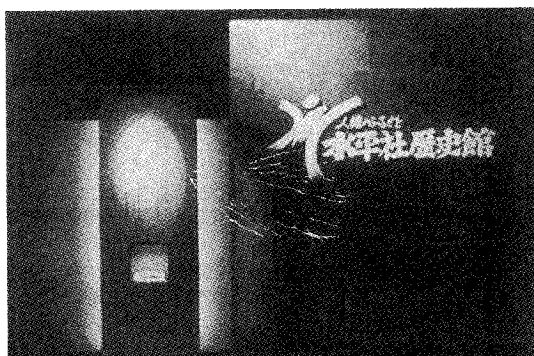
「水平社博物館」

前号の続きで、水平社博物館についての紹介をしてみたいと思います。

1922年3月3日、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と高らかに人間の尊厳と平等をうたいあげて、全国水平社は創立されました。80年あまりを経た今、創立者であった西光万吉、阪本清一郎、駒井喜作、米田富らは歴史上の人物となりましたが、水平社宣言は、日本で最初の人権宣言といわれ、解放運動の魂として生きつづけています。平和と人権の確立をめざす部落解放運動の原点が、全国水平社にあることは言うまでもなく、その歴史と精神は、水平社運動に身を投じた先人の闘いによってつちかわれたものです。

1986年、水平社発祥の地、奈良県御所市柏原で改良工事が始まり、その景観が変貌するにつれ、水平社魂の希薄さが心配されました。柏原を抜きに水平社を語ることはできず、それゆえに、この地の闘いの歴史を永遠に残したい気持ちに駆られるのは当然のことでした。水平社創立者たちを初めとして、多くの名もない人々が差別に抗して生きてきた事実を掘り起こし、その残した足跡

水平社博物館 メイン展示室入口

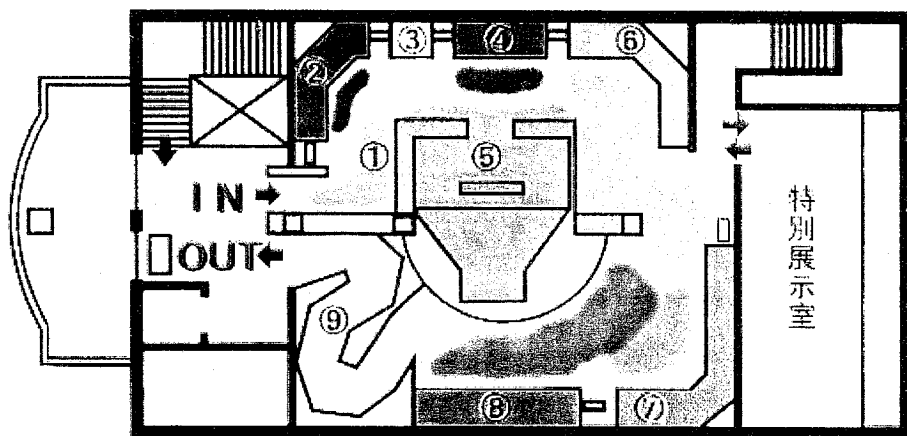


を保存^{ほぞん}していくことの重要性を感じ、「水平社博物館」は建設されたのです。今「水平社博物館」は、人権情報発信^{じんけんじょうほうはっしん}基地^{きち}としての役割^{やくわり}を担^{にな}い、あらゆる差別撤廃^{てつぱい}に向けた情報を発信しています。

前ページの図は荊冠旗^{けいかんき}といい、暗黒^{あんこく}の差別社会を表す黒地と解放^{くろじ}への情熱^{じょうねつ}を表す赤が使われたデザインは、西光万吉^{せいこうまんきち}によって考えられました。荊^{いばら}はキリストが処刑^{しよけい}されたときにかぶせられたもので、受難^{じゅなん}を意味しています。今でも水平社、解放運動のシンボルとなっています。

水平社博物館 メイン展示室を上から見た図

メイン展示室は①から⑨までのブースに分けられ、柏原(奈良県御所市)の地から生まれた水平社の歴史と差別のない未来をめざして闘った先人たちの姿をわかりやすく紹介しています。



① プロローグ	② 「雲間の曙光」	③ 「かすかなる胎動」
④ 「苦き力が集まるとき」	⑤ 「よき日よ、君の手を」	⑥ 「遙かなる水平の方に」
⑦ 「大空から日輪を」	⑧ 「芽から花を」	⑨ エピローグ
特別展示室		



■日本の学生と欧米^{おうべい}の学生では、夏休みの過ごし方が少しばかり違うようです。日本の学生は、受験生であれば受験勉強^{ひっし}に必死になり、そうでなければ、部活動やバイト、遊びに精を出すことが多いようです。しかし、欧米の学生の中には、各自が日頃抱^{いだ}いている疑問^{ぎもん}を解^とく絶好^{ぜっこう}の機会^{きかい}と捉え、自主的に調査・研究^{じしめてき ちようさ けんきゆう}など、調べ学習をしている学生も少なからずいるようです。良し悪しは別として、そんな日本の学生がもっと出てきてもいいんじゃないかと思うのですが。 ■一つ提案^{ていあん}があります。部落問題・人権問題に関する本、ビデオ、インターネットによるホームページをどれくらい見れるか、

ちょうせん

挑 戦してみたいかがでしょうか？まだ，なかなかそんな中学生はいないと思いますよ。

〇〇〇 2014年8月 〇〇〇

7月11日(水)～16日(月) 保護者面談
 13日(金)・16日(月) 全学年実力テスト
 19日(木) 終業式
 20日(金)～ 夏休み

7月20日(金)～25日(水) 徳島県総合体育大会
 30日(月)・31日(火) 学習会夏休み小・中合同一泊研修(香川県五色台自然の家)
 8月6日(月) 第6回部落解放徳島県学習会中学生集会執行部会(小松島市)
 7日(火)・26日(日) 全校登校日
 28日(火) 第6回部落解放徳島県学習会中学生集会(郷土文化会館)
 29日(水)・30日(木) 解放子ども会県内交流一泊研修(国立淡路青年の家)